

経済のグローバル化のもとでの持続可能な地域経済・産業のあり方と、そこでの市民社会部門や社会的起業の意義について考えることが研究テーマの一つ。とくに、観光まちづくりやグリーンツーリズム、地産地消などの地域経済・産業振興の取組みについて、文献研究や実地調査を行っています。なお、おもな実地調査先は山口県、京都府、兵庫県で、とくに「6次産業」化を通じての中山間地や農山漁村の活性化に関心があります。

1. 専門演習の目標

持続可能な地域のあり方、地域社会の再生・活性化について、社会学や経済学ほか複数の分野のアプローチから学びつつ、個々の専門や関心を広げるような視野や考え方、態度を涵養する。また、ゼミでのワークショップなどの参加を通じて、自ら積極的に働きかけつつ、他の相違する見解からも学ぶ。そうして学んだことをゼミ論（およびゼミ論集）としてまとめる。これらの作業を通じて実りの多い場になればと思います。

2. 専門演習で扱う課題と内容

地域の経済・産業、社会は、近年の経済のグローバル化、少子高齢化、定住人口の減少、地方財政の逼迫、行財政改革の推進、市町村の合併などの荒波にもまれ、その先行きは現在、不透明な状況にある。こうした背景のもとに各地では「地域再生」や「地域活性化」に取り組まれてきているが、その重点は、地域の社会公共サービス、経済、産業、文化、福祉など多様であって、一様ではない。本専門演習では、とりわけ地域経済・産業の持続可能な、望ましいあり方はどのようなものか、こうした多様性を踏まえつつ考えていきたい。また、地域の再生や活性化の具体的な方途、とくにこのゼミでは、観光業を活用しての、例えば、観光まちづくり、グリーンツーリズム、地産地消、都市・農林漁村の交流などに目を向け、実地調査をも交えながら検討したい。

3. 授業の進め方・内容

このゼミでは毎回、インターネットその他で収集した地域ニュースのミニ発表、そして、テーマを決めてのワークショップ形式での文献や事例の研究・発表から構成されます。事例研究に関しては、ゼミ内でテーマごとにグループをつくって作業をします。取り上げるテーマについては、相談の上決めていきたいと思っています。1年間の

活動と成果は、ゼミ論集としてまとめます。3回生前期・後期は、文献の輪読・研究、そして、グループでの事例研究・発表、フィールドワークが主な内容となります。この時期を通じて、問題意識を深め、研究テーマを探り、3回生の終わりまでに、卒論のプロポーザルを作成します。4回生前期・後期は卒業論文の作成が主な内容となります。卒業論文執筆のための文献の輪読や資料の研究、ワークショップをします。なお、ゼミ研修旅行として、年に複数回、問題関心に合った現地に赴いてのフィールドワークも実施したいと思っています。

4. 必要とする知識

とくにありません。あえて言えば、経済学の基礎知識があれば望ましいです。

5. 関連する分野・科目・知識

地域経済学、地域産業論、地域社会論、地方自治論などに関連があります。

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

文献：①宮本常一「日本列島にみる中央と地方」（『宮本常一 著作集 2 日本の中央と地方』の第1章、7 - 60ページ）、②神野直彦『地域再生の経済学』中公新書、2002年。

7. 独自に付加する選考方法

面接を実施する場合があります。

8. 受講生に望むこと

自主自発的、積極的にゼミに参加する、無断欠席や遅刻をしない、などのルールは守ってください。ゼミ旅行、その他の課外活動にも参加することが望まれます。必ず説明会には出席してください。